

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010.6.5～6（名古屋工業大学）

企画セッション討議内容の記録

セッション名：都市鉄道～新しい研究課題を議論する～	
日付： 6月 5日（土）曜日，セッション時間： 8：45～10：45	
オーガナイザー名（所属）：岩倉成志（芝浦工業大学）・轟 朝幸（日本大学）・金子雄一郎（日本大学）	
討 議 内 容	<p>セッションは，第1部：先端の都市鉄道研究の紹介，第2部：実務側からの都市鉄道研究に対する要望の二部構成で実施した．このうち第1部における主な議論は以下のとおりである．</p> <ul style="list-style-type: none"> 井上論文では，“経験的な経路選択の設定”の内容について質問があり，利用実績のある経路を選択肢集合から削除しないで残しておくとの回答があった．また，曖昧性を排除するために，ルールを整理しておく必要性が指摘された． 山下論文では，時間価値が低いことについて質問があり，代替経路を2経路しか設定していないことが影響していると考えられるとの回答があった． 横山論文では，λを考慮することで精度が大幅に向上する理由について質問があり，λ（指数分布のパラメータ）を一人一人推定しているためとの回答があった．また，複数の経路を選択するようなネットワークを対象としているという質問があり，単路部を対象としているという回答があった． 仮屋崎論文では，シミュレーションにおいて各駅の乗降時間は考慮されているかという質問があり，走行時間のみであって停車時間は実績値を外生的に与えているとの回答があった． 中村論文では，属性などによって歩行速度にバラツキがあるのではという質問があり，今回は挙動の表現することに留まっており，この点については今後の課題としたいという回答があった．また道路のような追い越しレーンを設置するなど制御できないかとのコメントがあった． <p>第2部においては，鉄道及びバス事業者，行政の立場からの問題意識や都市鉄道の研究に対する要望が紹介された．登壇いただいた方は，東急電鉄・横内氏，西武鉄道・陰山氏，阪急電鉄・抱江氏，京阪電鉄・長瀧氏，国際興業・後藤氏，国土交通省・小幡氏の6名である．主な論点は以下のとおりである．</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少や高齢化が進む中，多様化する利用者ニーズに対応した設備投資を実施していくためには，投資効果の定量的な把握が重要であり，そのためにも精緻な需要予測が求められる． 上記については，例えばICデータを用いた需要予測システムの開発などが挙げられる． 観光需要，休日及び昼間時の需要の喚起は重要な課題である． 収益向上は至上命題であり，既存ストックの有効活用や沿線人口の定着化が必要である． 都市鉄道との関連でバス事業を見ると，例えば駅勢圏の実態を踏まえたバスアクセスの整備や，鉄道輸送障害時のバス代替の評価などの研究が求められる． 行政に携わる立場からは，混雑緩和への大規模投資が厳しいなかでソフト対策の有効性や時間帯移転感度の検証や，用途・容積率と鉄道容量との整合性，乗り換え動線と街の賑わいの関係，公共施設との近接・一体化などが街づくりに及ぼす影響などのテーマについて関心ある． <p style="text-align: right;">（文責 金子）</p>